

鹿児島 ROCK NEWS 号外

鹿児島唯一のロッククライミング情報誌 (無料)

PDF ファイルをウェブ配信 http://homepage.mac.com/hyam2/Climbing_Guide/

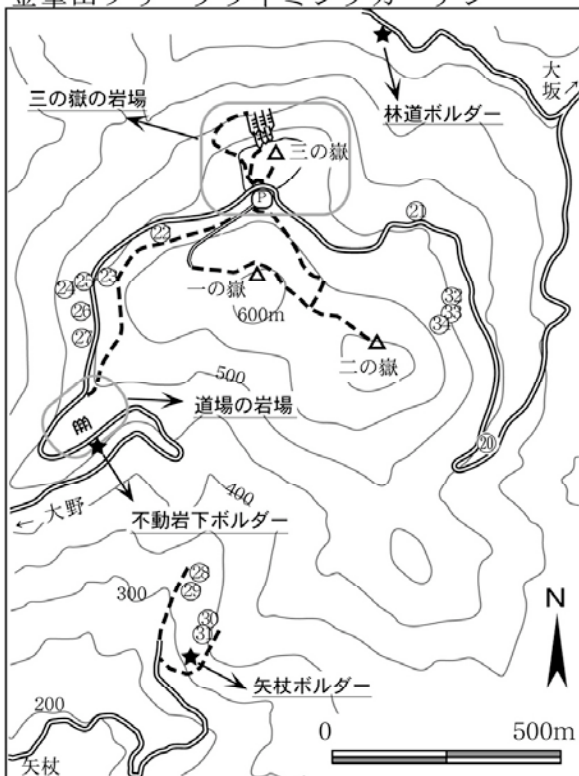
毎度忘れられたところに突然発行していますが、諸般の事情により山本が編集するROCK NEWSはこの号外で最後です。今号では金峯山の2009年末時点での既存ルートのほぼすべての情報を網羅しました(ボルダー課題を除く)。前号までに掲載済みのルートも含まれます。

金峯山の岩場

金峯山は鹿児島市の中心部から南西にある標高636mの独立峰である。金峯山は主に砂岩と泥岩の地層からできていて、砂岩の地層が岩壁や岩塔となって森の中に点在している。南西面の中腹には小規模な花崗岩がある。砂岩の岩場といえば脆くてデリケートなものが連想される。しかし、金峯山の地層は花崗岩マグマが貫入したときの熱の影響で締っていて、十分な硬さがある。金峯山は「金峰山」と書かれていることが多いが、ここでは国土地理院の地形図の表記に従う。

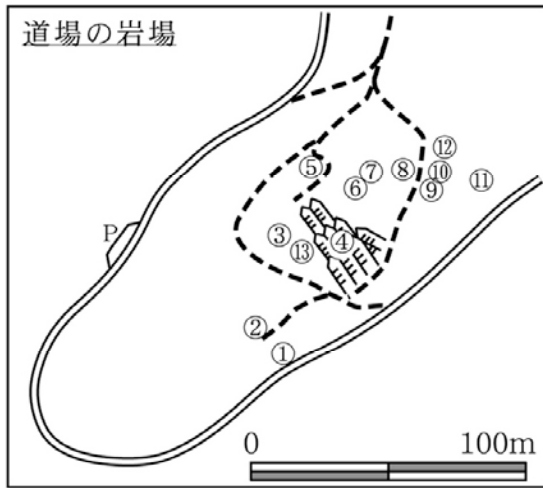
鹿児島市中心部からのアプローチは次のとおりである。国道225号線を南下。笹貫で右折し、市電の踏切を渡ってJR指宿枕崎線を高架で越える。県道20号線を直進し、永田川を渡った先のT字路で右折する。指宿スカイラインの谷山IC付近を通過し、県道22号線との分岐点(右側にガソリンスタンドがあるT字の交差点)を左折して「錫山バイパス」に入る。道なりに進んで峠を越えたところで、正面に発電用の巨大な風車、右手に金峯山(三つのピークが並んでいる)が見える。大坂(だいざか)の交差点(左側に大坂小学校)を右折してすぐ先の左側にある木造アーチ橋(金峰2000年橋)を渡る。橋の金峯山側に公園とトイレがある。直進するとやがて道幅が狭くなりカーブが連続する上り坂になる。途中で右手に砂利道が分岐していて、そちらに入ると「林道ボルダー」に至る。舗装路の方を辿っていくと一の嶽と三の嶽の間の峠に至る。ここに駐車場とトイレがある。

金峯山フリークライミングガーデン



- 1-13: 道場の岩場
- 14-19: 三の嶽の岩場
- 20: 虚空蔵岩
- 21: ごまめ岩
- 22: 坊主岩
- 23: 大仏岩
- 24: 普賢岩
- 25: 帝釈岩
- 26: 孔雀岩
- 27: 夜叉岩
- 28: 金閣岩
- 29: 銀閣岩
- 30: 三蔵岩
- 31: 悟空岩
- 32: 屏風岩
- 33: 柱岩
- 34: 扇岩
- ★ボルダーエリア

金峯山の岩場は1980年代には既に知られていて、鹿児島山岳会のメンバーによって「不動岩」と「仁王岩」にルートが拓かれていた。岩の名称は開拓当初は定められておらず、後から黒稜会のメンバーが命名したものである。1990年代に入って黒稜会が開拓に着手すると、まず不動岩に数本のルートが追加され、続いて周辺の岩も登られていった。5.7から10台前半までのラインが登り尽くされると、未知の岩を探して開拓を継続し、現在までに30以上の岩にルートが拓かれている(他の山岳会による開拓とトップロープ課題だけの岩を含む)。発見したものの、登れそうに思えなかったり、アプローチが不便で手をつななかった岩もある。最近はそのような岩のいくつかに高難度のボルダー課題が



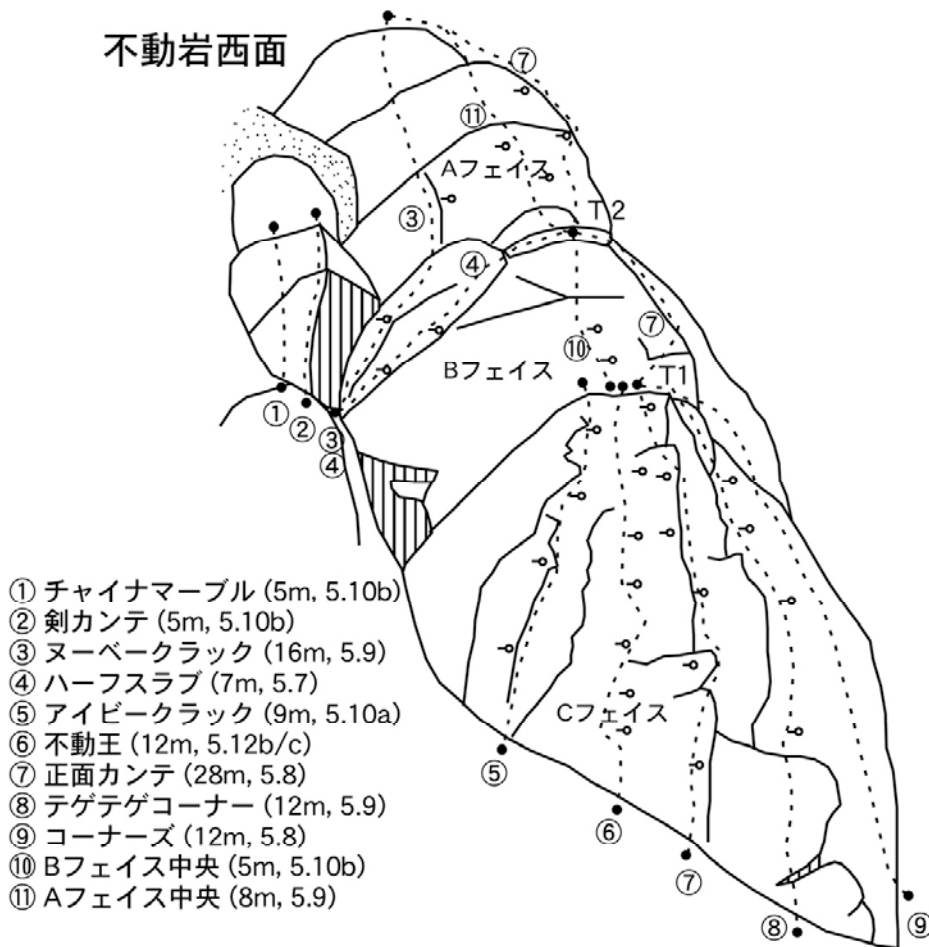
- 1 : 仁王岩, 2 : 観音岩, 3 : 弁天岩,
 4 : 不動岩, 5 : 地藏岩, 6 : 羅漢岩,
 7 : 布袋岩, 8 : 文殊岩, 9 : 彌勒岩,
 10 : 蓮華岩, 11 : 阿修羅岩, 12 : 薬師岩
 13 : 翁岩

拓かれている。位置図には一度でも試登された岩は全て表示した。各ルートの支点には、ペツルタイプのハンガーボルトを設置している。ボルトの表示がないルートは、現時点でトップロープ課題である。初登者については、確認できている場合のみ記している。

道場の岩場（不動岩エリア）

不動岩とその周辺は、開拓の当初から現在に至るまで金峯山で一番多くのクライマーが集まる人気エリアである。金峯山が修験道の霊場であることから、黒稜会では「道場の岩場」と呼んでいる。数年前に不動岩直下のボルダー群に多数の課題が作られて、鹿児島島の内外から訪れるボルダラーで賑わうようになった。ボルダー課題については、既に「金峯山ボルダー図集」が出版されている（問合せ先 リバーサイドウォール鹿児島：電話、099-814-5054；URL、<http://www.rswk.net/>）。

不動岩西面



- ① チャイナマーブル (5m, 5.10b)
 ② 剣カンテ (5m, 5.10b)
 ③ ヌーベークラック (16m, 5.9)
 ④ ハーフスラブ (7m, 5.7)
 ⑤ アイビークラック (9m, 5.10a)
 ⑥ 不動王 (12m, 5.12b/c)
 ⑦ 正面カンテ (28m, 5.8)
 ⑧ テゲテゲコーナー (12m, 5.9)
 ⑨ コーナーズ (12m, 5.8)
 ⑩ Bフェイス中央 (5m, 5.10b)
 ⑪ Aフェイス中央 (8m, 5.9)

不動岩西面

不動岩の西面は二つのバンドで区切られた三面のフェイス（下からC、B、A）と上部の緩傾斜面からできている。南面との境界はほぼ垂直のカンテになっている。西面に向かって左端から二つのルートは現時点でトップロープ課題である。CフェイスからB、Aフェイスをつなげて登るときは、ロープの流れが悪いのでT1テラスでピッ



チを区切る。T1テラスからは、岩に向かって左手方向に傾斜したバンドを辿って下降できる。

- ・ヌーベークラック (5.9)
- ・ハーフスラブ (5.7)
- ・アイビークラック (5.10 a)

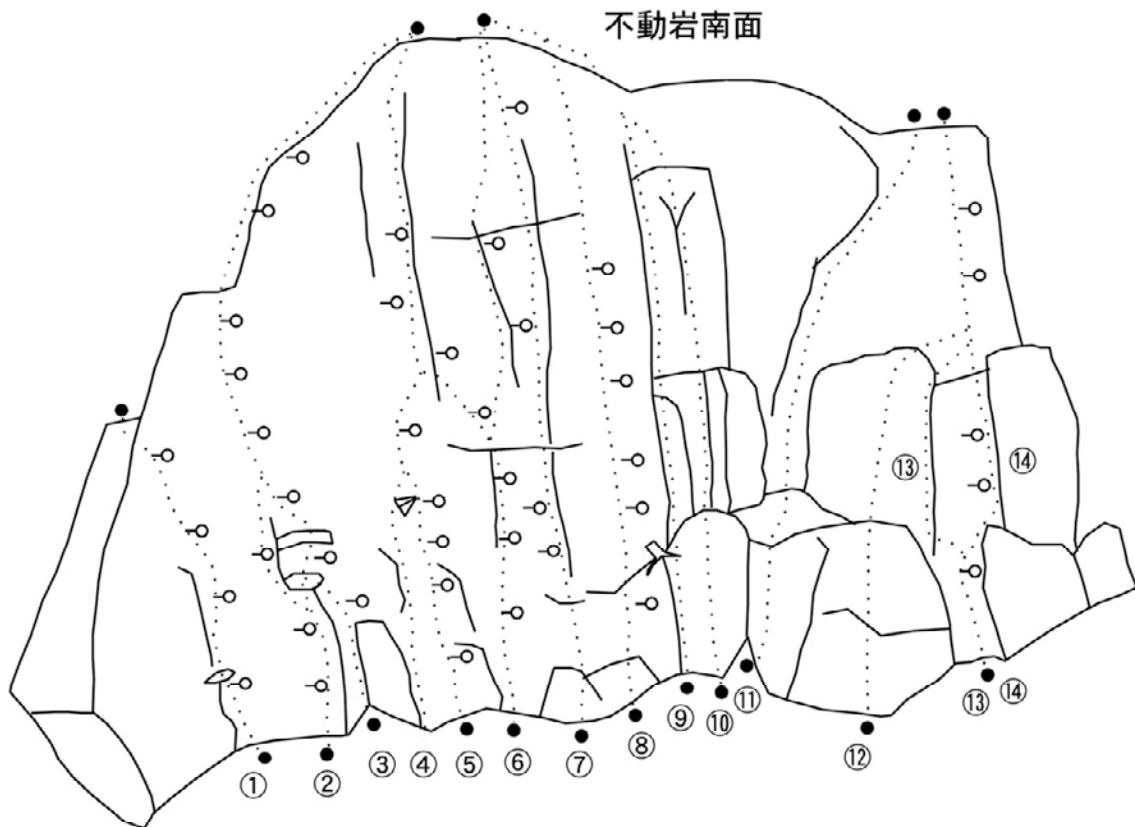
クラックの角度に合わせて身体を左右に振る動きが必要。

- ・不動王 (5.12 b/c) 1999年5月21日 山本啓司

Cフェイスの中央部は、開拓を始めた当時の我々の実力ではホールドが全くなさそうに見え、登攀の対象外であった。小山田大氏がこのラインをトップロープで試登し、それから3年後に完成した。ルート of 左右に並走するカンテ状部分のホールドは使わない。

- ・正面カンテ (5.8) 鹿児島山岳会による開拓

出だしの数手が少し悪い。二本目のボルトにクリップする前に落ちるとグラウンドフォールになる。上部に、強く引くと剥がれそうなフレック状のホールドがある。



- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| ① コーナーズ (12m, 5.8) | ⑧ 猫だまし (28m, 5.10b) |
| ② ガバカンテ (28m, 5.8) | ⑨ ダイレクトクラック (28m, 5.9) |
| ③ ダークチムニー (28m, 5.8) | ⑩ 三段フェイス (25m, 5.10a) |
| ④ フレッシュマン (28m, 5.8) | ⑪ ヒドゥンチムニー (25m, 5.7) |
| ⑤ オールドマン (28m, 5.8) | ⑫ デルタフェイス (25m, 5.9) |
| ⑥ フィンガークラック (28m, 5.10a) | ⑬ 浮き石クラック (25m, 5.8) |
| ⑦ センタークラック (28m, 5.10a) | ⑭ チョックストーンクラック (25m, 5.8) |



オールドマン

不動岩南面

南面には5.7から10 aまでの比較的易しいルートが並んでいる。一般に下から3分の1くらいの場所の傾斜が強く、核心部もそのあたりである。上部は傾斜が緩く易くなるが、ボルト間隔が遠いのと、まれに浮き石があるので慎重に。高度差は20m以上あり、途中でビレイを区切ってマルチピッチの練習もできる。南面を登りきって不動岩の頭に立つと、晴れていれば開聞岳、吹上浜、甌島などがよく見える。

- ・テゲテゲコーナー (5.9)

正面カンテの右側にある凹角を登って西面のT1に至る。上部でコーナーの角度が浅くなってくるところの処理が少々難しい。

- ・コーナーズ (5.8)

凹角の右寄りと左寄りの二本のラインが登られている。

- ・ガバカンテ (5.8)
- ・ダークチムニー (5.8)
- ・フレッシュマン (5.8)
- ・オールドマン (5.8) 鹿児島山岳会
- ・フィンガークラック (5.10 a) 1999年1月23日 米澤弘夫

オールドマン

クラックに沿って登るラインであるが、使うホールドは大部分クラックの両側のフェイスにある。

- ・センタークラック (5.10 a)

上と同様。

- ・猫だまし (5.10 b) 鹿児島山岳会

3本目のボルト付近が核心部で、そこで左右に迂回せずにまっすぐ登ると難しくなる。

- ・ダイレクトクラック (5.9)

- ・三段フェイス (5.10 a)

それぞれ数メートルのフェイスが上下に三面並んでいる。

- ・ヒドウンチムニー (5.7)

- ・デルタフェイス (5.9)

- ・浮き石クラック (5.8)

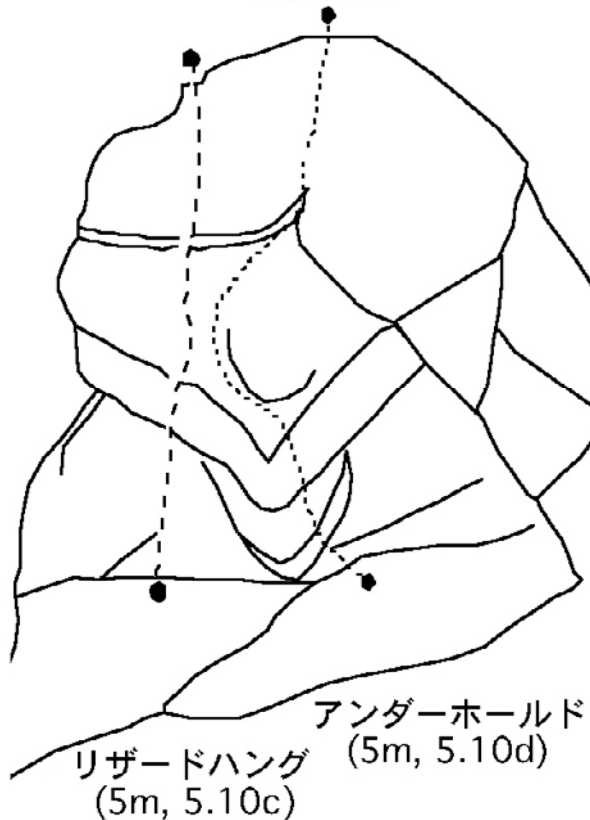
- ・チョックストーンクラック (5.8)

広いクラックの途中に石が詰まっている。

- ・アウトサイドコーナー (5.10 b)

チョックストーンクラックを東面側に回り込んだ所の凹角にもルートがある (図の右端付近の裏側)。上半部は強い引きつけが必要。

不動岩東面

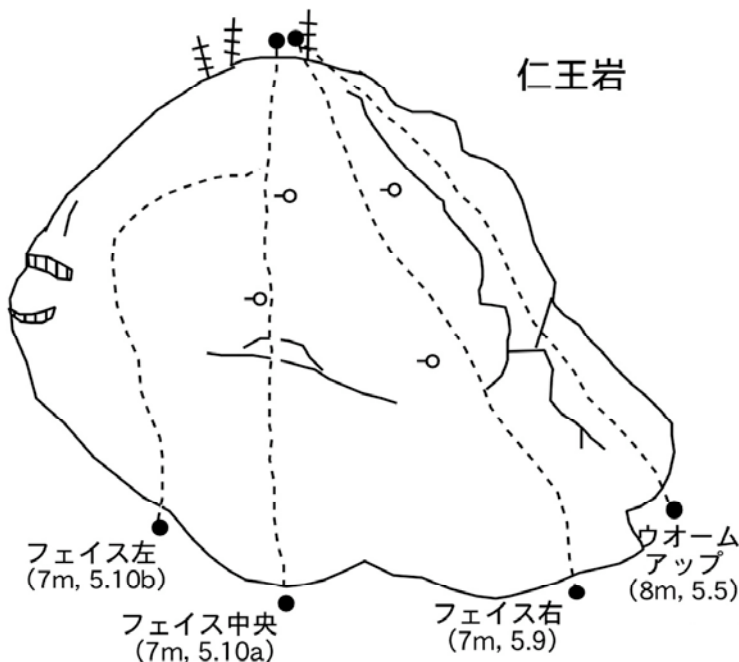


不動岩東面

東面の上部には約7mのほぼ垂直なフェイスがある。ここに至るには不動岩の東側、または北側を大きく迂回する。

- ・リザードハング (5.10 c)

- ・ハングを正面から越える。指の力と腕力を要する。
- ・アンダーホールド (5.10 d)
アンダーホールドを使って左上した後で正対ムーブに移るところが難しい。



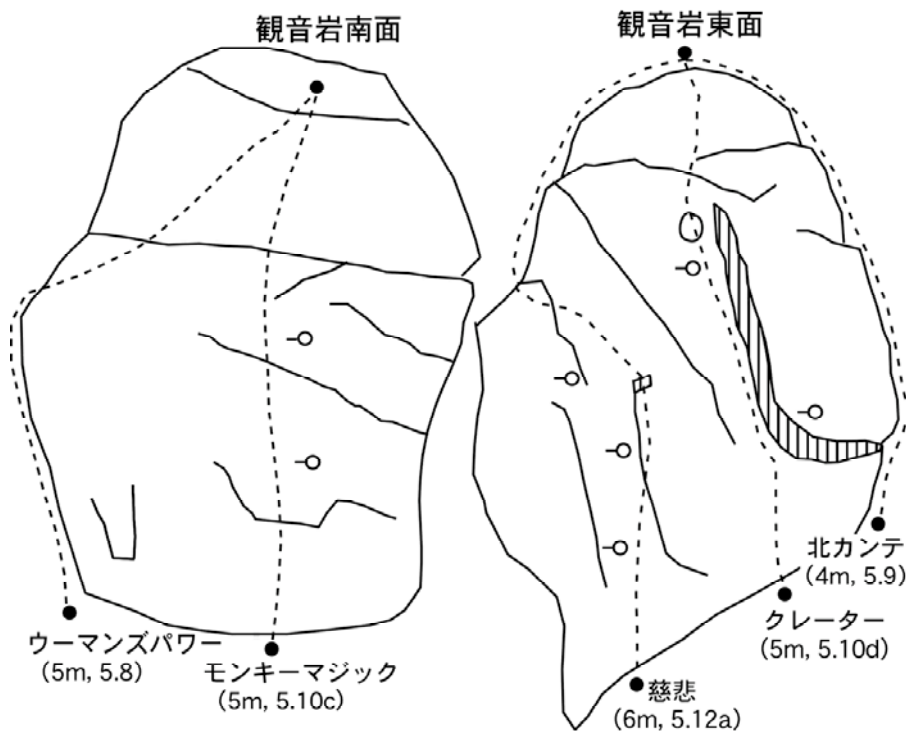
仁王岩

舗装路のすぐそばにある小さいスラブ状の岩。アプローチは道路から一歩進むだけ。ルート名は黒稜会が開拓に着手してからつけたものである。

- ・フェイス中央 (5.10 a) 鹿児島山岳会による開拓

二本目のボルト付近のバランスが微妙。

- ・右方カンテ (5.9) 鹿児島山岳会
右側のカンテ状部分の左側を登る。他に、トップロープ課題が二本ある。



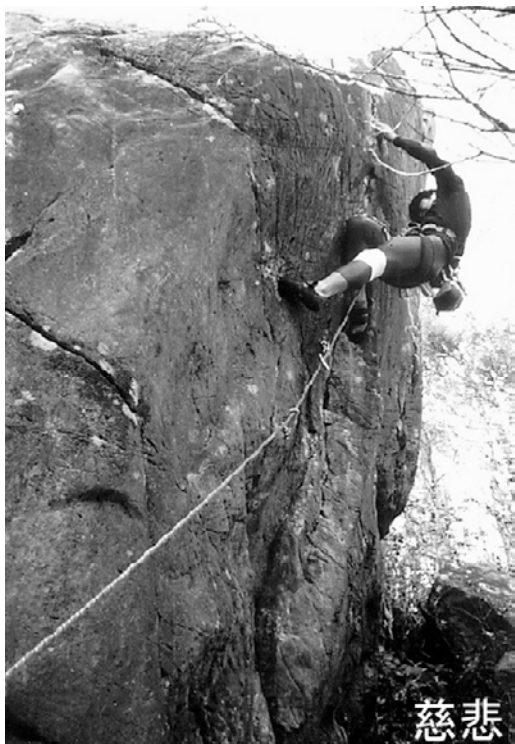
観音岩

不動岩の南面に正対したときに、左手に見える塔状の岩が「観音岩」である。観音岩にはリードできるラインが三本拓かれている。

- ・モンキーマジック (5.10 c)

最初の一手が核心。一本目のボルトにカラビナー一枚掛けでプリクリップしておく。小さい岩なので、ボルダーと

して登ることもできる。

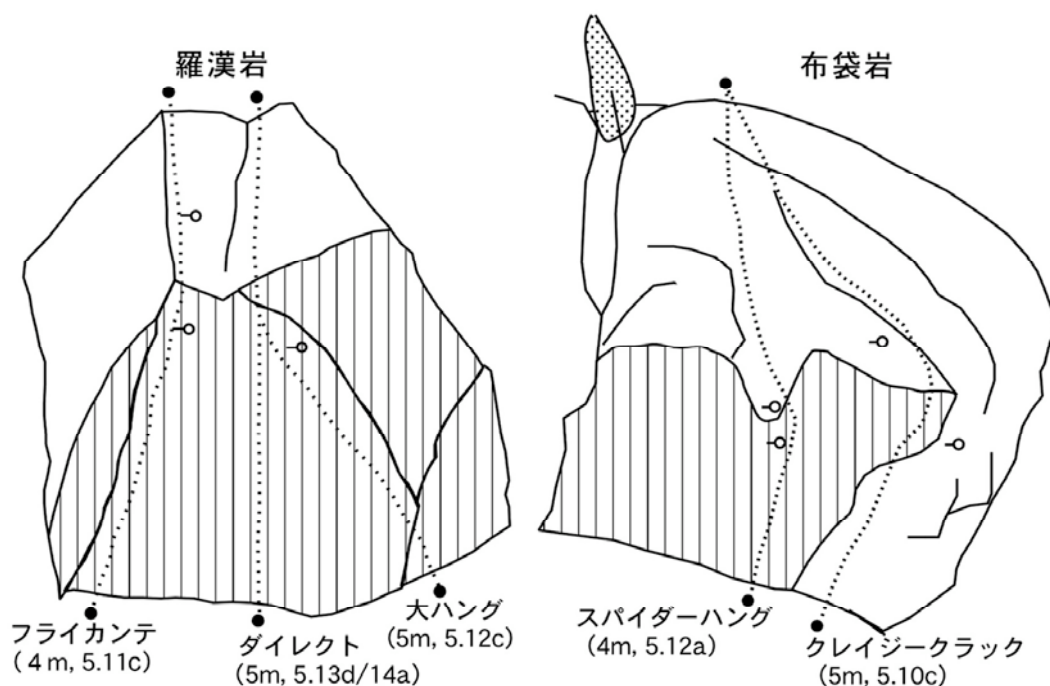


・慈悲 (5.12 a) 1998年12月20日 山本
最初は右後方にある丸い岩に乗って取り付いていた (5.11 c / d) が、後に観音岩の本体だけを使って登るようにラインを変えた。

・クレーター (5.10 d)
上部でクレーター状のホールドを使用する。抜け口が悪い。

羅漢岩・布袋岩

不動岩の北東にある「羅漢岩」と「布袋岩」には、小山田大氏によって高グレードのルートが拓かれている。布袋岩は羅漢岩に対面したときの右手側にある。羅漢岩に寄りかかるように大きく逆傾斜したフェイスと、その右端を走るハンドクラックにルートが設定されている。開拓当時はルートに名称が与えられていなかった。名前がないと不便なので地元クライマーが仮につけて呼んでいたものが結局そのまま現在に至っている。羅漢岩と布袋岩は別の岩の上にかぶさるように乗っていて、そのテラス状の岩の上から取り付く。小さい岩だが、ボルダーとして (ロープなしで) トライするとテラスから転げ落ちる恐れがある。トップロープでトライするときも、振られて地面、立木、人に衝突する可能性がある。



・フライカンテ (5.11c) 1996年 小山田

羅漢岩の向かって左端にある大きく逆傾斜したカンテ状部分を登るライン。フライカンテは開拓された当初は12dであったが、その後「ディー」は「ビー」の聞き間違いとされ、さらに最近、小山田氏本人が再登して11cに格下げされた。

・大ハング (5.12c) 1996年 小山田

かぶったフェイスを左上する。開拓された当時は13aとされ、長い間金峯山で最難の一本であった。これも本人が再登して12cになった。

・ダイレクト (5.13d/14a) 2006年 小山田

羅漢岩の中央部をほぼ真直ぐに登る。これは初登者による命名。

・スパイダーハング (5.12a) 1996年 小山田

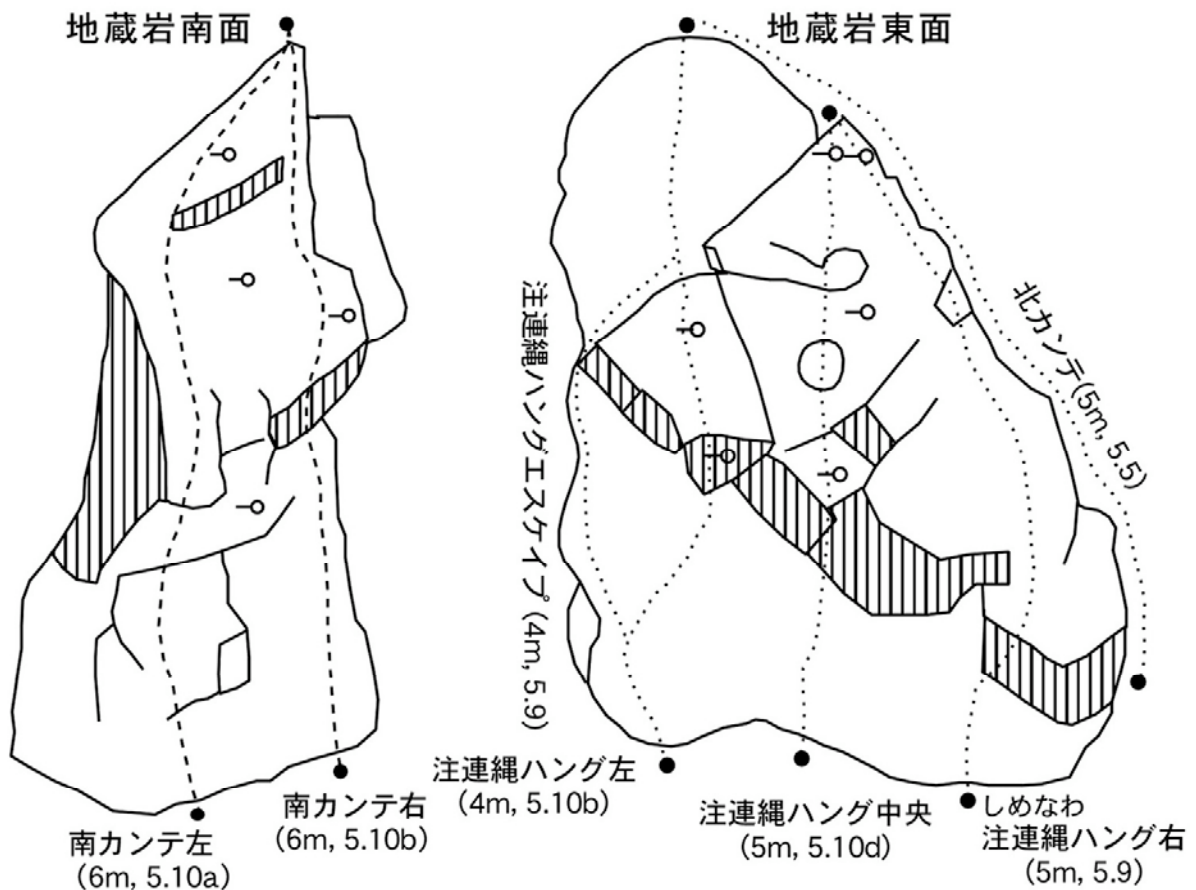
かぶったフェイスの右寄りから取り付いて左斜め上に乗り越える。このルートではクライマーがビレイヤーにぶつかる、あるいはクライマーの体重でビレイヤーが持ち上げられて岩にぶつかる恐れがあるので、下地の岩にボルトを打ってロープの流れを変えられるようにしてある。そのボルトのハンガーが時々なくなってしまう。他の岩でも地面から手の届く位置にあるハンガーがなくなることがある。クライマーが持ち去っているとは考えたくないが、「ボルトが多すぎる。」という趣旨の批判なのかもしれない。

・クレイジークラック (5.10d)

布袋岩に向かって右端に登る。ハンドサイズのクラックの手前側が右に大きく張り出したフレークのようにになっている。技巧派はハンドジャム、パワー派はレイバックで。

地藏岩

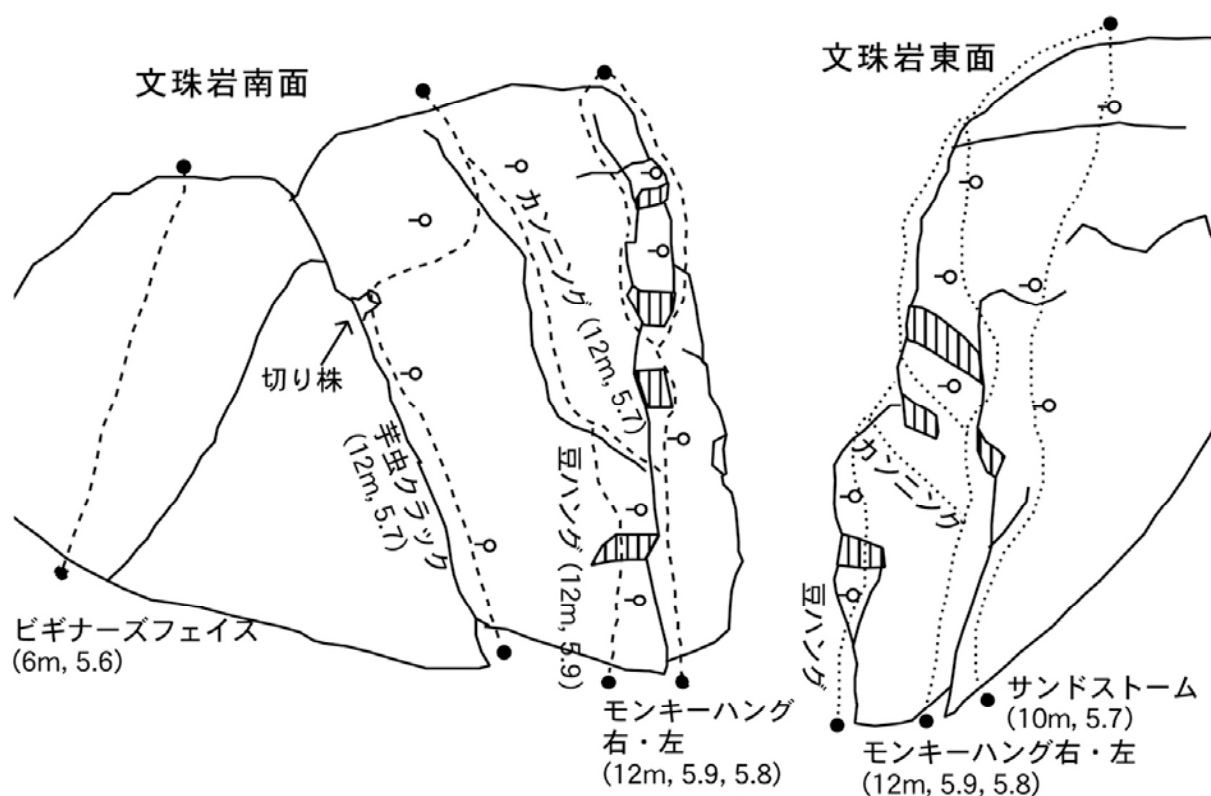
羅漢岩の上にある小さい塔状の岩。東面に70cmくらい張り出したルーフ状のハングが横切るようについている。その形が神社に掛かっている「しめなわ」を連想させるので、ルート名に使われている。



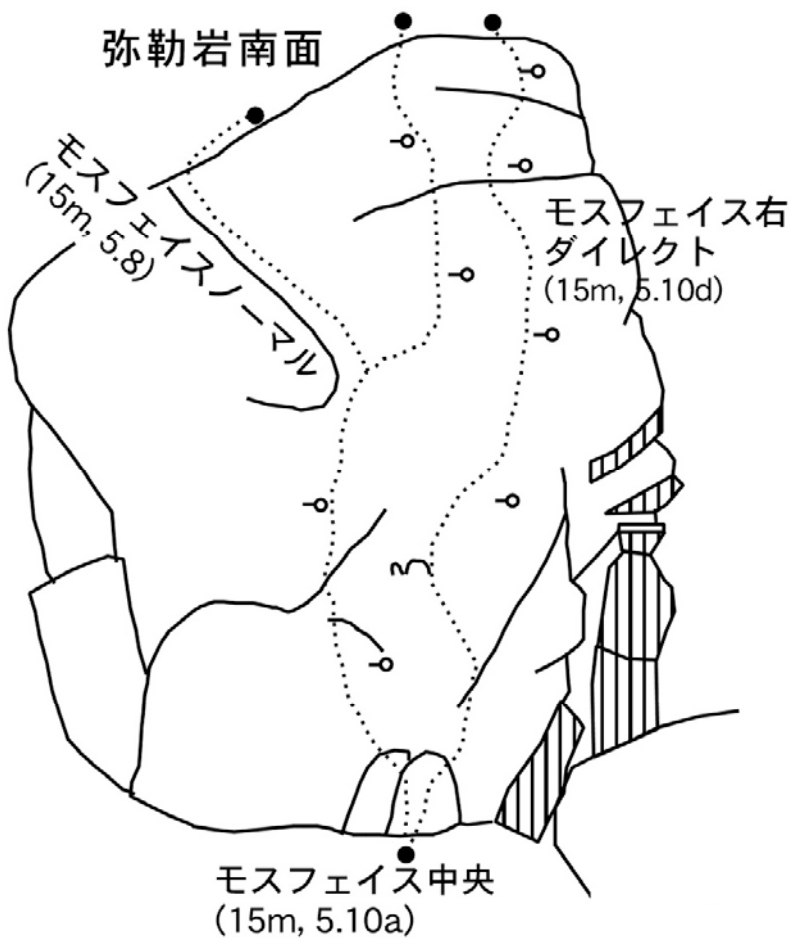
- ・南カンテ左 (5.10 a)
柱のような南面の左側を登る。
- ・南カンテ右 (5.10 b)
右側を登る。
- ・注連縄ハング左 (5.10 b) 1997年 米澤、山本
ハングの左寄りに登る。
- ・注連縄ハング中央 (5.10 d) 米澤、山本
東面の中央部を登る。ハングの乗り越えるには、丸く浅い穴の縁を右手で保持できるかどうかか鍵。そのあと、右足をニーロックできると楽になる。
- ・注連縄ハング右 (5.10 a)

文殊岩

不動岩の南面から向かって左手方向に進むと、歩道の左側にある壁が文殊岩である。文殊岩は、左上するクラックを境に二つのブロックに分かれている。ハング、フェイス、クラック、スラブが揃っている。



- ・芋虫クラック (5.7)
下部はクラックに沿って登り、右の緩いスラブに移って終了点へ。
- ・豆ハング (5.8)
- ・カンニング (5.7)
- ・モンキーハング左 (5.9)
凹角から取り付き、凹角の上部を塞ぐ小ハングを左側から越える。
- ・モンキーハング右 (5.8)
上と同じハングを右側から越える。
- ・サンドストーム (5.7)
東面の易しいフェイスを登る。



彌勒岩

不動岩の南面から向かって左手方向に進むと、右側にある小さい岩塔が彌勒岩の頭である。

- ・モスフェイスノーマル (5.8)

開拓当初は苔だらけだった。フェイス基部の小岩から取り付き、途中から左上するバンドを伝って岩の左肩に抜ける。

- ・モスフェイス中央 (5.10 a)

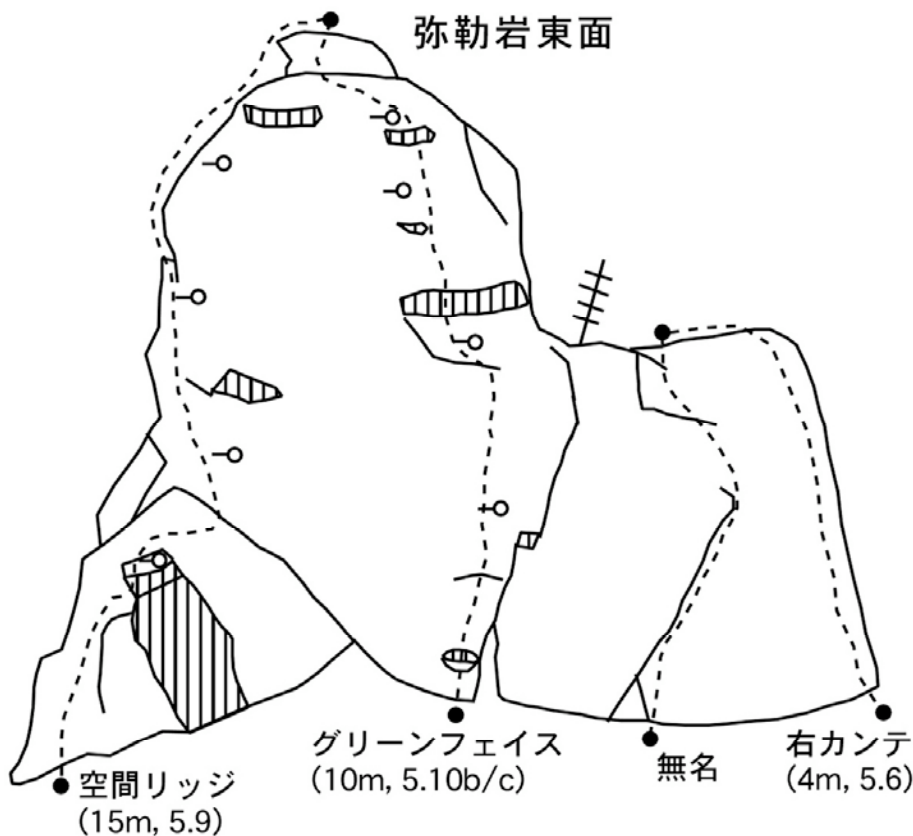
左上バンドを使わず、フェイスの中央を登って頭に至る。

- ・モスフェイス右ダイレクト (5.10 d) 山本

モスフェイス中央のラインと、右のリッジの間を登る。

- ・空間リッジ (5.9) 米澤

岩の東南側の基部にあるハングを越えて、東面と南面の境界をなすリッジに沿って登る。身体が空中に浮いたような感覚になる。

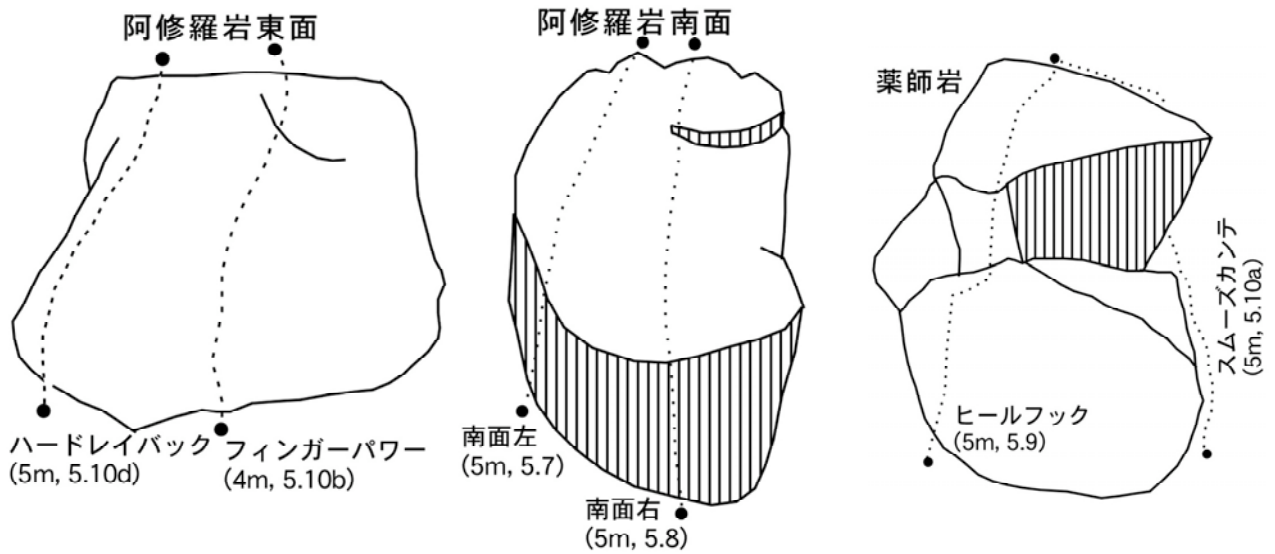


- ・グリーンフェイス (5.10 c) 1997年 米澤、山本

開拓当初は、フェイス一面に苔が生えて緑色の粉がかかったような状態だった。

弁天岩・蓮華岩・阿修羅岩・薬師岩・翁岩

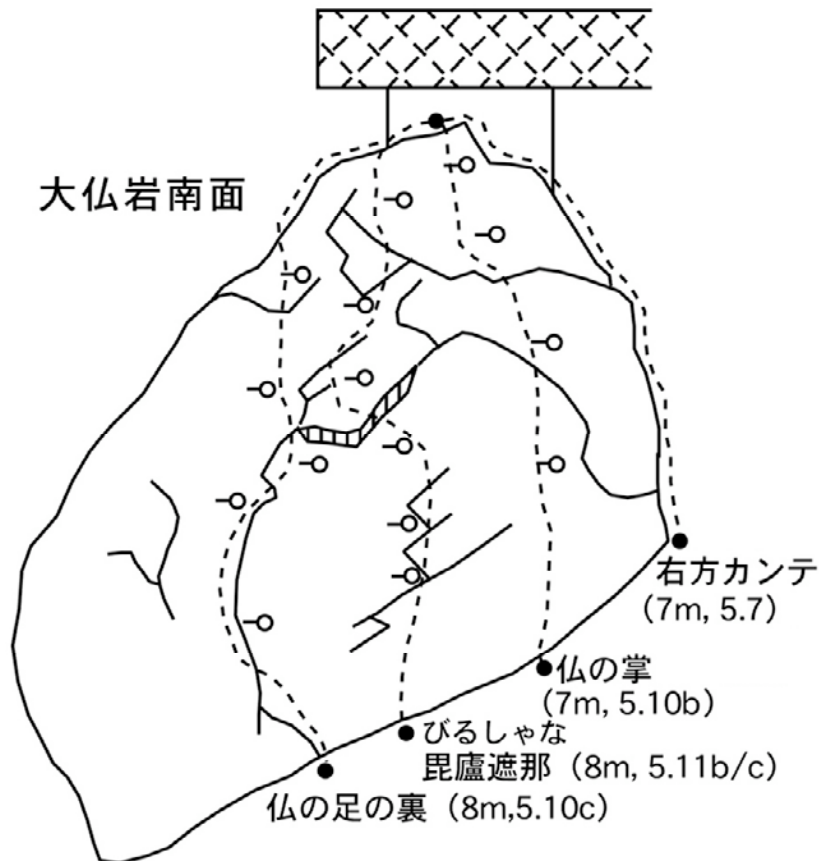
不動岩周辺に点在するこれらの小さい岩にはトップロープ課題が設定されている。ここでは図が現存するものだけを掲載する。



大仏岩エリア

大仏岩

一の嶽と三の嶽の間にある駐車場（位置図の「P」）から「西側遊歩道」を南西方向に約300m進むと「西展望台」に至る。展望台の入り口の右側から踏み跡に従って10mほど下ると大仏岩の東側に出る。そこから左に回り込むと南面の基部に至る。この踏み跡にはハゼの木があって、人によっては触れるとかぶれる。展望台はこの岩の上に乗るように設置されているが、老朽化して立入禁止になっている。西展望台直下の舗装道路から大仏岩に直接アプローチすることもできる。道路から展望台が見える位置より50mほど南の山側の木についている赤いテープの目印から藪に分け入って踏み跡を辿り、遊歩道に行き当たったところで左に進む。



展望台」に至る。展望台の入り口の右側から踏み跡に従って10mほど下ると大仏岩の東側に出る。そこから左に回り込むと南面の基部に至る。この踏み跡にはハゼの木があって、人によっては触れるとかぶれる。展望台はこの岩の上に乗るように設置されているが、老朽化して立入禁止になっている。西展望台直下の舗装道路から大仏岩に直接アプローチすることもできる。道路から展望台が見える位置より50mほど南の山側の木についている赤いテープの目印から藪に分け入って踏み跡を辿り、遊歩道に行き当たったところで左に進む。



毘盧遮那

・仏の掌 (5.10 b) 米澤

垂直よりやや逆傾斜した南面の右寄りに登る。三本目のボルト付近が核心部で、そのムーブはかなりトリッキー。このラインをトップロープでトライするときは、下部で落ちると左に大きく振られる。終了点からの下降は、「右方カンテ (トップロープ課題)」の上半分をクライムダウンして東面側の歩道に降りるか、終了点から懸垂下降する。南面の他のラインも同様。

・毘盧遮那 (5.11 b) 1997年12月21日 山本

南面の中央部を三角形の頂点目指して登る。出だしからホールドの配置が悪く、微妙なバランスを強いられ、三本目のボルトまではグラウンドフォールの可能性がある。特に二本目のボルトにはヌンチャクではなくて、ロープを通したカラビナを直接かけるようにすべき。核心部は三本目の左上にある小さいハングを越えてその上に立つまでの数手である。ここはボルトが近いのでZクリップになりやすい。トップアウトするときの動作にも注意が必要。「びるしゃな」と読む。

・仏の足の裏 (5.10 c)

縦と横のエッジをうまく使い分けるときれいに登れる。三本目のボルト付近が核心。ここは初登時には正対して登っていて、10 dのグレードをつけていたが、後に楽なムーブが見つかって10 cに格下げになった。仏の足の裏の左側にも無名のライン (5.10 c程度) があり、現時点ではトップロープ課題。

・春の雨 (5.8)

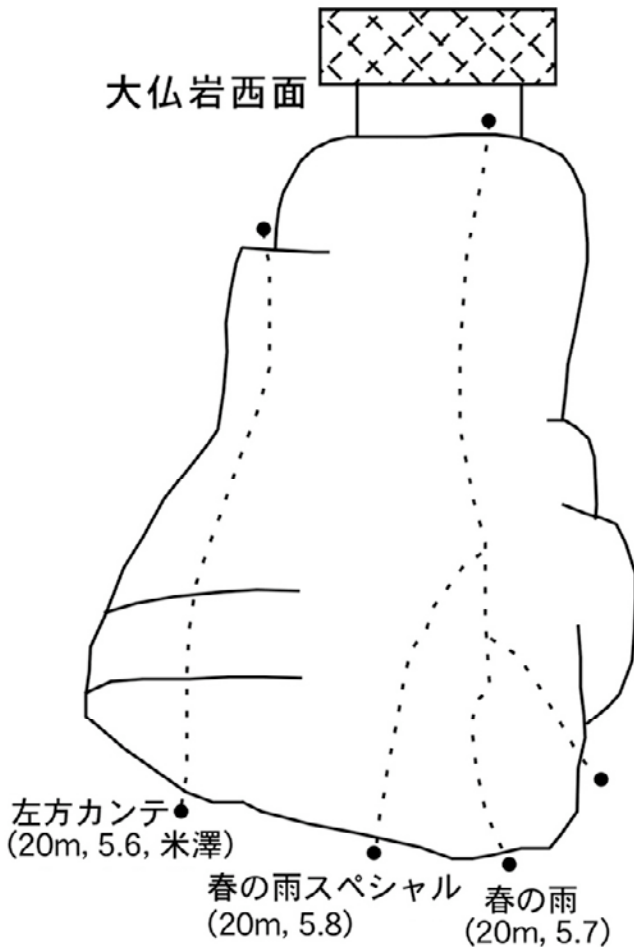
西面の右寄りに登る。開拓中に、にわか雨が降ったことからこの名前がついた。出だしの3mくらいが垂直に近く、上部に行くほど傾斜が緩くなる。西面の他のラインも同様。終了点からのローダウンは難しい。ヌンチャクを回収するには、誰かにフォローで登って来もらうか、あるいは終了点から懸垂下降する。展望台が作られた岩だけあって、天気がよければ終了点から吹上浜と東シナ海がよく見える。

・春の雨スペシャル (5.9)

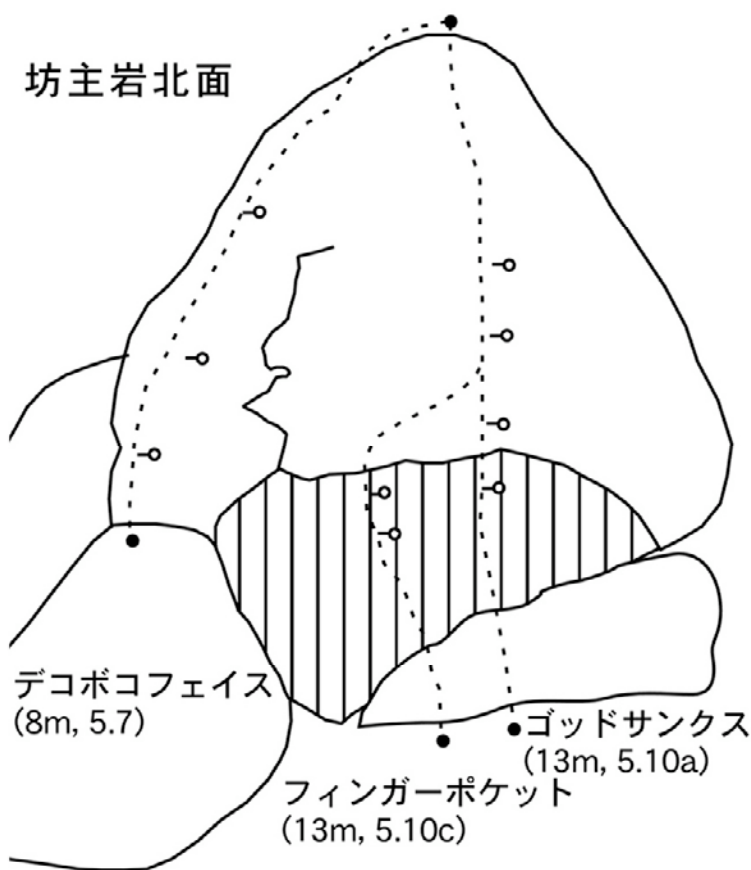
西面の中央部から取り付き、「春の雨」のラインに合流する。フェイス下部のホールドが小さくて少し難しい。

・左方カンテ (5.6)

西面左端のカンテ状部分に登る。左方カンテのさらに左に回り込むと北面のフェイスに「リトルコーナー (5.5)」と「階段フェイス (5.7)」というトップロープ課題がある。なにしろ階段状なので、全くの初心者でも登れてしまう。リトル



コーナーは、右寄りの位置から取り付くと登攀距離が長くなるが、寄りすぎると左方カンテと重なってしまう。



・デコボコフェイス (5.7)

左手にある小さい岩に乗って取り付く。傾斜は緩くホールドも豊富。北東面には「リトルクラック (5.5)」、西面には「木魚フェイス (5.7)」と「線香クラック (5.6)」というトップロープ課題がある。

帝釈岩

大仏岩直下の舗装路の谷側、吹上方面に向かっていているときの右手に蔦がからみついている塔状の岩がある。見えている部分の高さは3mくらいであるが、斜面を降りて基部から見ると10m程度ある。

- ・フーテンフェイス左 (5.10 a) 1997年11月 米澤、山本
- ・フーテンフェイス中央 (5.10 a) 1998年2月 米澤、山本
- ・フーテンフェイス左 (5.8) 1998年2月 西郷

普賢岩

大仏岩直下から舗装路を吹上側に50m程進み、右手(谷側)の藪に入って約50m下ると普賢岩の頭に出る。基部に回り込むとほぼ垂直のフェイスが現れる。登攀対象は下部の10m程度。

- ・ダブルうんたら (5.11 a) 1998年11月14日 山本

やや逆傾斜したフェイスに二本のクラックが1・6m間隔で平行して左上している。ラインはこのクラックに沿っているが、浅いので大部分がフェイスのムーブになる。フェイスを登り切ると、岩の頭まで階段状の緩斜面が続いている。ここにはボルトを設置していないので慎重に。「ダブルうんたら」の左にはトップロープ課題「うんたらカンテ (5.10 d?)」がある。さらにその左方の北西面にも三本のトップロープ課題がある。

坊主岩

駐車場から西側展望台方面に約200m進むと右手にベンチがあって、その奥に見える丸い岩の頭が坊主岩である。頭に向かって左側から藪に入り、右に回り込むように約15m降りると岩の基部に至る。遊歩道から見える部分は小さいが、その実体は10m以上の高さがある、下部は大きくオーバーハングしている。発見時はハングに圧倒されたが、実際にトライしてみると5.10台だった。

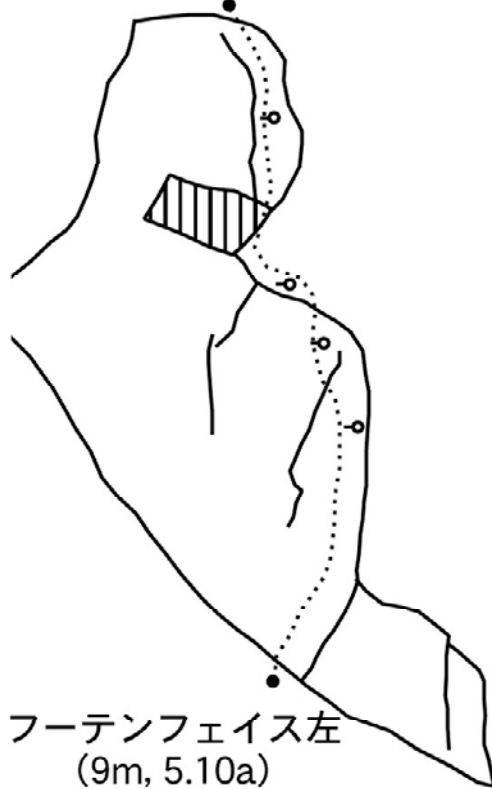
- ・ゴッドサンクス (5.10 a)

北面のハングを越えてフェイスを頭まで登る。ハングにはガバとしたホールドが並んでいて、ワシづかみにして登れる。

- ・フィンガーポケット (5.10 c)

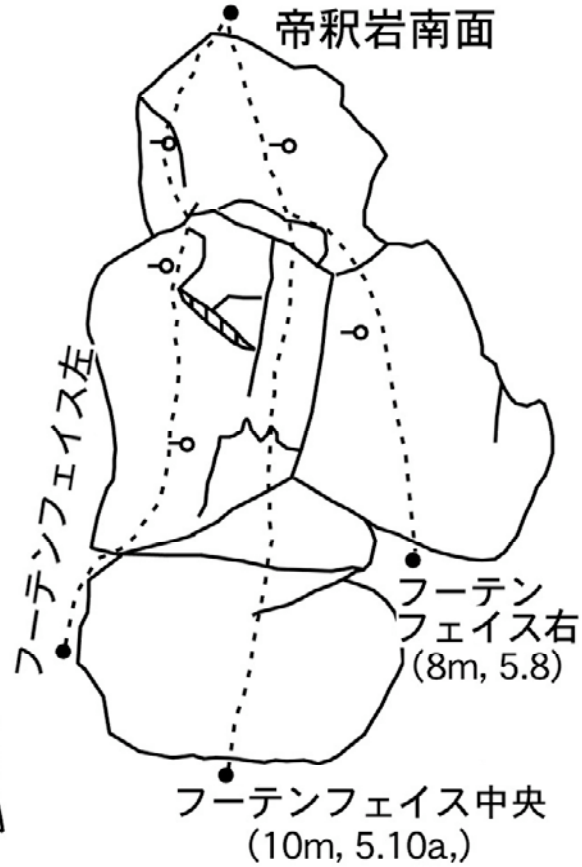
出だしのポケットホールドから名前をつけた。核心部は左手で遠いフレイク状のガバを取るところ。足の位置と身体の振り方に工夫が必要。そのあとは「ゴッドサンクス」の上部に合流する。

帝釈岩北西面



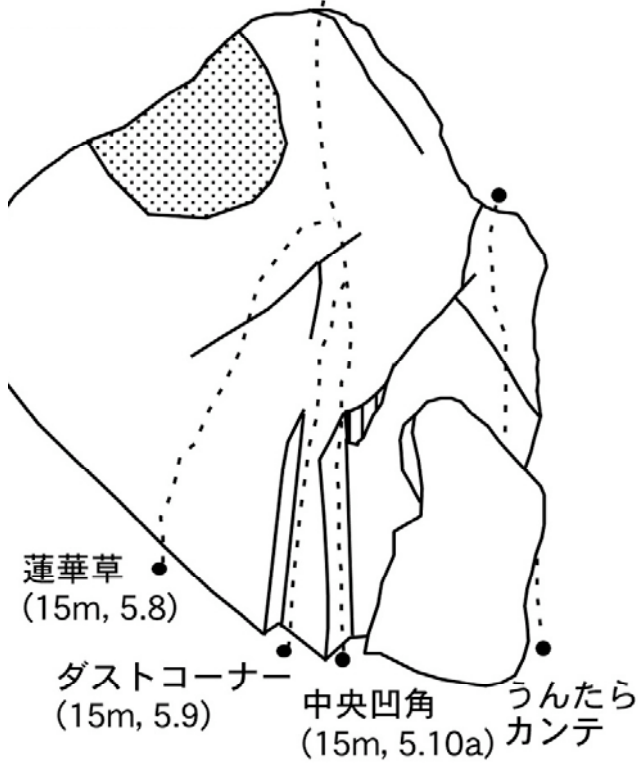
フーテンフェイス左
(9m, 5.10a)

帝釈岩南面



フーテンフェイス中央
(10m, 5.10a,)

普賢岩北西面



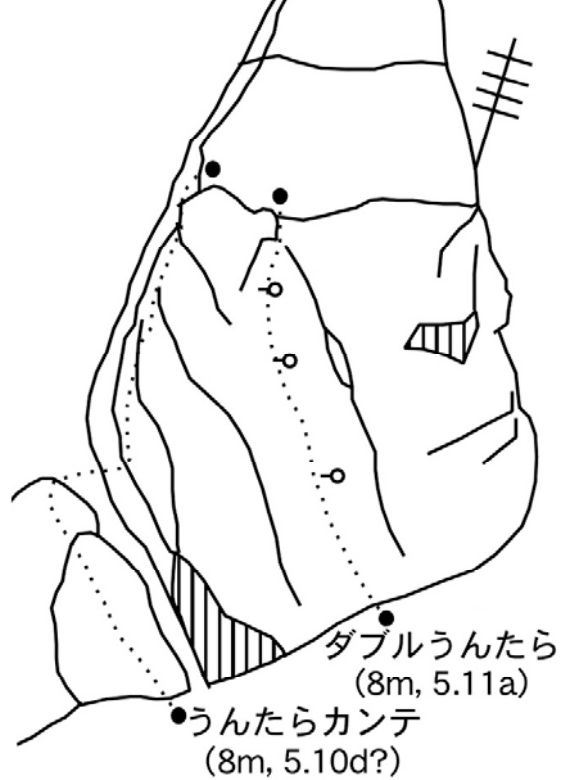
蓮華草
(15m, 5.8)

ダストコーナー
(15m, 5.9)

中央凹角
(15m, 5.10a)

うんたら
カンテ

普賢岩南西面



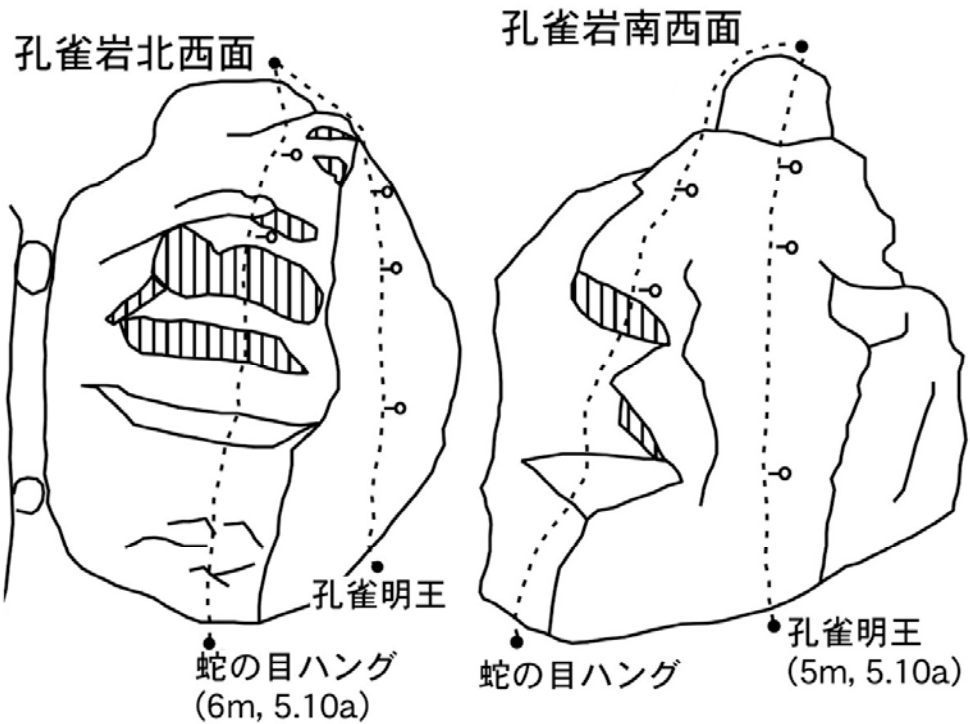
ダブルうんたら
(8m, 5.11a)

うんたらカンテ
(8m, 5.10d?)

孔雀岩

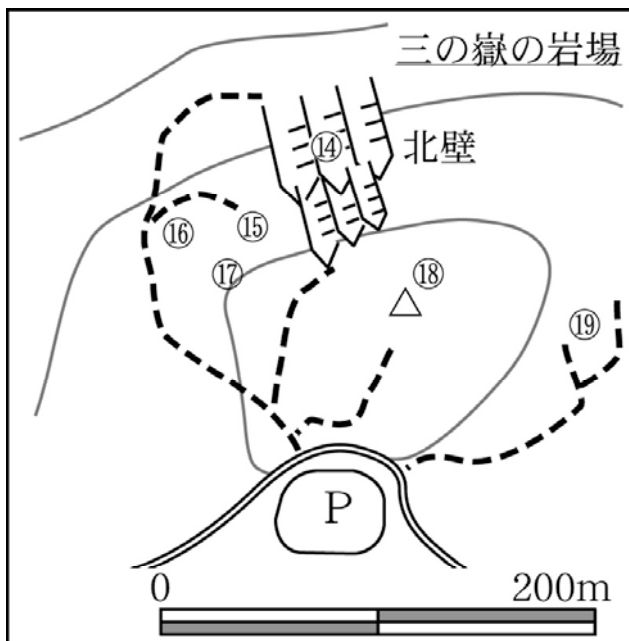
普賢岩から南に約40m進むと高さ5mほどの岩がある。

- ・孔雀明王 (5.10a) 1998年3月 米澤、山本
- ・蛇の目ハング (5.10a) 1998年3月 米澤、山本



夜叉岩

孔雀岩から約50m南下すると高さ4mほどの岩がある。試登したものの完成したルートはない。



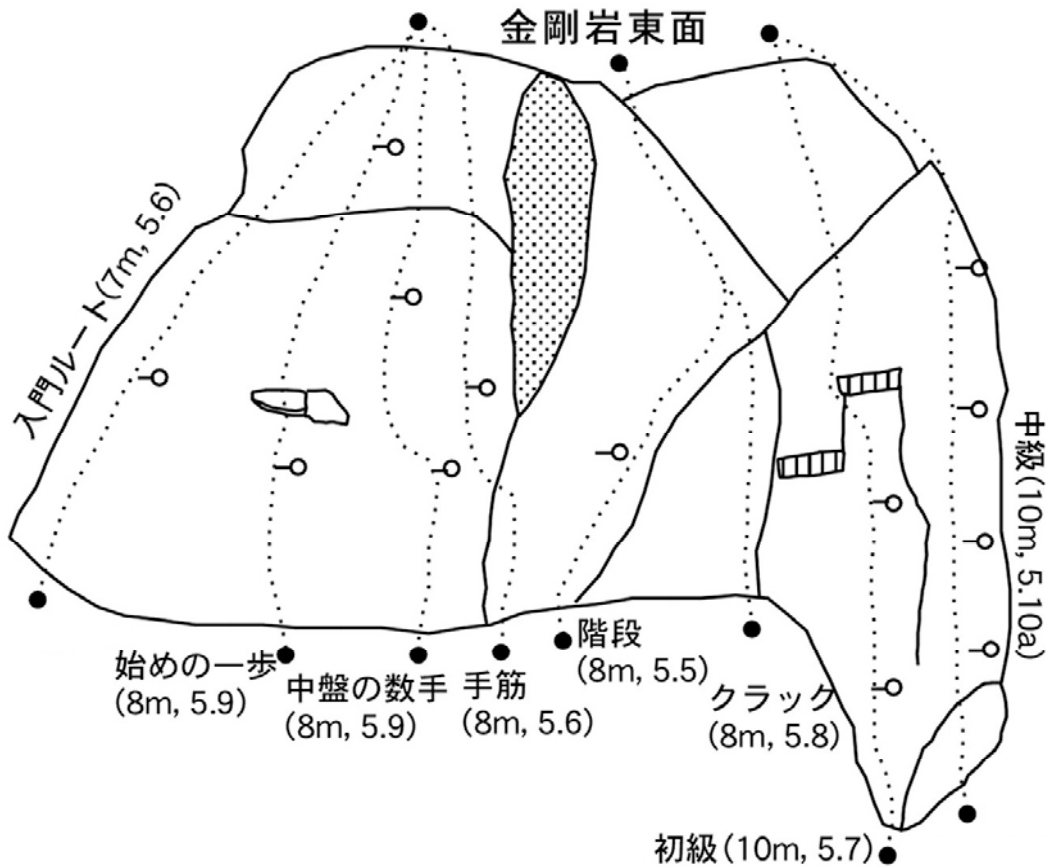
三の嶽エリア

三の嶽は、駐車場からすぐ北に見える三角形の山。頂上直下とその周辺に登攀可能な岩が点在している。見つけたものの手をつけていない岩や、開拓を中断したままになっている岩もある（閻魔岩、阿弥陀岩、毘沙門岩など）。

- 14: 北壁, 15: 閻魔岩, 16: 阿弥陀岩,
17: 毘沙門岩, 18: 金剛岩, 19: 念仏岩

金剛岩

駐車場から舗装路を横断して三の嶽頂上に向かう歩道を数分登る。頂上の北東側の藪を約10m進むと東方に切れ落ちた岩壁（高度差約8m）の上に出る。そこが金剛岩の頭。左右の藪を降りると岩の基部に至る。初登者は全て米澤。



- ・入門ルート（5.6）
- ・始めの一步（5.9）

名前のお通り、最初の一步が核心。

- ・中盤の数手（5.9）

上と同様に中盤の数手が核心。

- ・手筋（5.6）
- ・階段（5.5）
- ・クラック（5.8）
- ・初級（5.7）

- ・中級（5.10a）

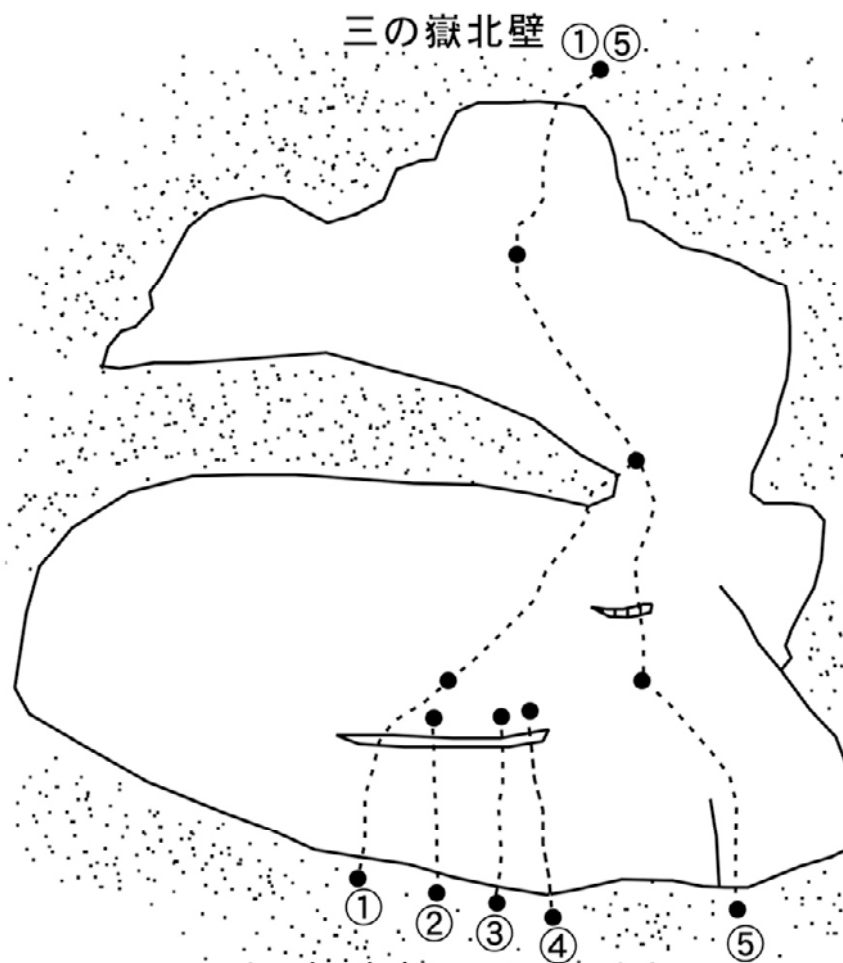
右のカンテにそって小凹角を登る。

- ・桂馬の高飛び（5.10a）

中級のラインを右へ回り込んだ所の凹角を登る。見た感じよりも難しい。

三の嶽北壁

高度差がおおよそ80mもある岩壁が三の嶽北面の上部に聳えている。麓の道路からよく見えているにもかかわらず、黒稜会が開拓するまでは全く手付かずの状態だった。北壁の基部へのアプローチは少々複雑である。駐車場から道路を挟んで北西にある石碑の裏から踏跡を辿る。左に杉の植林、右に雑木林を見ながらそれらの境界に沿って100m弱下ると踏跡が右に分岐している（赤テープが目印）。そこから右の雑木林に入る。この分岐を見落とし



- ① 苺狩り (60m, 5.8)
- ② きのご狩り (20m, 5.9)
- ③ 紅葉狩り (20m, 5.8)
- ④ 落穂拾い (20m, 5.8)
- ⑤ 葡萄狩り (120m, 5.7)



葡萄狩り

て植林の中を下ってしまわないように注意する。雑木林の中を進むと、右手に4 mくらいの岩が現れる。岩の下を巻くと再び4 mくらいの岩、その先にはスラブ状の岩があり、すべて下側を巻いて進む。次に現れる7 mくらいの岩の基部に沿って右上に15 m程進むと北壁の末端に至る。迷わなければ、駐車場から15分以内に到達できる。

・苺狩り (5.8) 米澤、山本

前述した北壁の末端から岩の基部に沿って約40 m進んだところが取り付き。最初の15 mくらいが急なフェイスで、その上は傾斜が落ちる。2ピッチ目は広いスラブを右上し、左から伸びるブッシュの末端付近で「葡萄狩り」のラインに合流する。

・きのご狩り (5.9) 米澤、山本

「苺狩り」の右のラインを登る。そのままスラブを右上すれば「葡萄狩り」につながる。以下の二本も同様。

・紅葉狩り (5.8) 米澤、山本

「きのご狩り」の右のライン。下から2本目のボルトがあったはずの場所50 cm四方くらいの範囲の岩が白くなっていて、ボルトが見当たらない。ボルトもろとも崩落したと思われる。現時点(2008年3月)では復旧していない。

・落穂拾い (5.8) 米澤、山本

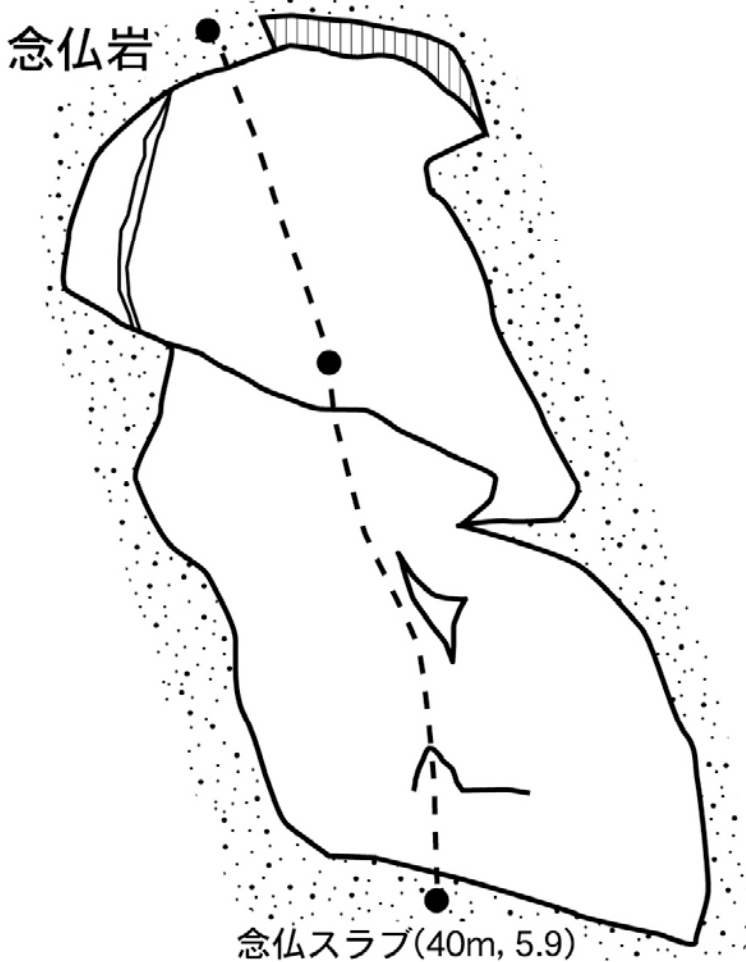
「紅葉狩り」のさらに右を登る。

・葡萄狩り (5.7) 米澤、山本

易しいスラブ状の岩が4ピッチにわたって続くルート。1ピッチ目と3ピッチ目の中盤はラインが分りにくい。4ピッチ目の緩いスラブに向かって立つと、左後方に桜島、右に東シナ海が見える。スラブを登り詰め、右手の樹林に入ったところで終了。雑木林の中の踏跡を南に進むと駐車場に至る。



一部凍結した北壁



念仏岩

数年前の台風のとときに樹林が剥がれ落ちて岩が出現した。駐車場の北東にある空地の奥にある踏み跡に入る。斜面を少し登ってから右に巻くと、その先は急な下りになる。樹林の中を約50m下って左に折れると、スラブ状岩壁の基部に至る。

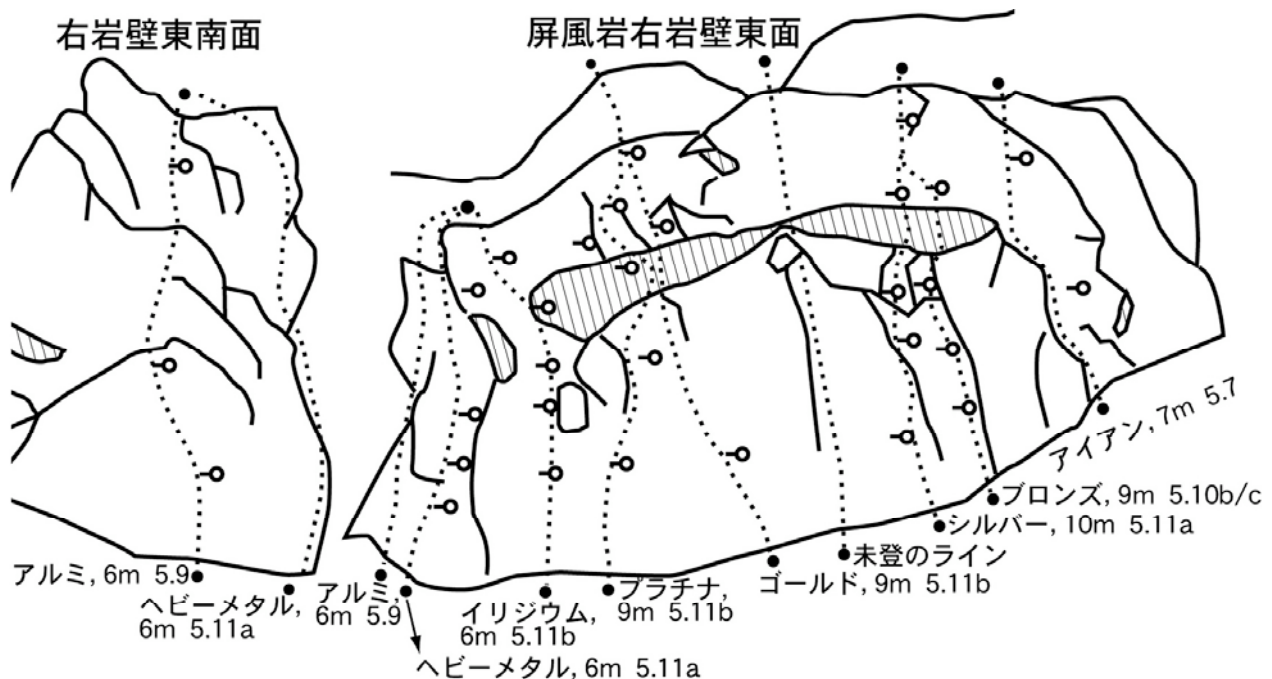
・念仏スラブ (5.9)

縦に長いスラブのやや左寄りを登る。途中にある草付きのバンドでピッチを区切ることもできる。

屏風岩エリア

二の嶽の東側の樹林の中に岩が点在している。大坂側から登っていくと、南西に張り出したヘアピンカーブから約300m進んだところの道路の山側（左手）にコンクリート擁壁がある。そこから50mほど戻ったところから山側の樹林に入り、踏み跡を辿って行く。途中に炭焼窯の跡と思われる円筒状の穴がある。正面に6mくらいの垂直の岩が現れたら、その岩の基部で右に折れて、30mくらい進むと左手に塔のような岩が見える。これが「柱岩」である。そこから20mくらい先に「屏風岩左岩壁」、次にハング帯を挟んで「中央壁」がある。さらに15mほど先に「右岩壁」がある。その先は小さな谷になっていて、落石防止の金網が張られている。柱岩の裏に回ってさらに50mほど登ると「扇岩」に至る。最近あまり人が通っていないせいか、アプローチの踏み跡がわかりにくくなっている。

右岩壁はほぼ垂直で、中央部に小ハング帯を持つ。10本のルート（バリエーションを含む）が完成している。中央の最も高度差があるところを直登するラインは完登されていない。トップロープでトライした感触では5・12の後半はあると思われる。中央壁は、下部は垂直で上部は80度程度のフェイスになっている。リードできるルートは一本だけだが、現時点でこのエリアでは最も高度差がある。左岩壁は傾斜の緩いフェイスで、5・7から9程度のルートがある。中央壁と左岩壁の間にはハング帯がある。ハング状の部分は岩が脆いので、いまのところ登攀を試みていない。柱岩にはリードできるルートが一本と、未登のフェイス、ハングがある。扇岩は下部はホールドが乏しいスラブ、上部はかぶったフェイスになっていて、高度差20mくらいのスケールがある。5・12クラスのルートが作れると思われるが、現時点でルートは拓かれていない。トップロープをかけるときは、左岩壁と中央壁は岩に向かって左側から巻いて上に出る。右岩壁は右から巻く。トップロープの支点は木から取るので、長いスリングか補助ロープが必要（一部のルートには下降用のボルトがある）。



屏風岩右岩壁

- ・アイアン (5.7)

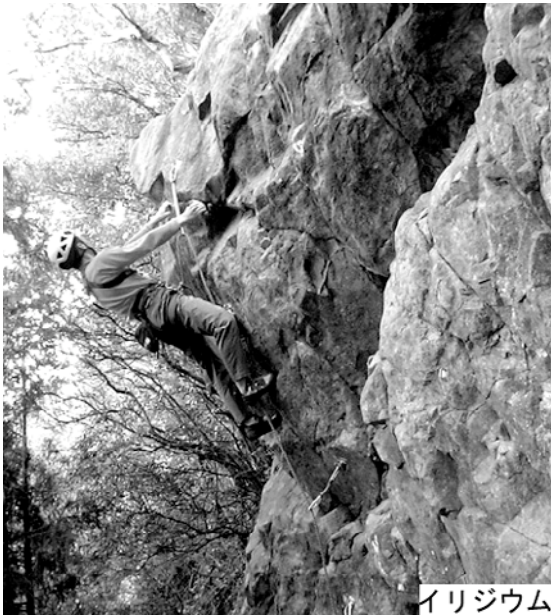
右端付近の傾斜が緩い部分を登る。ボルト間隔が広いので慎重に。

- ・ブロンズ (5.10b/c) 2001年12月15日 山本
小ハングを越えたあとで油断すると落ちる。
- ・シルバー (5.11a) 2002年1月6日 山本
- ・ゴールド (5.11b) 山本

出だしの数手のバランスが悪くて難しい。

・プラチナ (5.11b) 2002年6月15日 山本

小ハングの直下で右に寄って、超えるところで左のクラックを使う。



イリジウム

・黄銅鉱 (5.9)

ゴールドとプラチナの易しい部分をつなげて登るバリエーション。

・プラチナゴールド (5.11c) 2003年5月3日 山本
ゴールドから取り付いて、ハング帯から上はプラチナにつなげる。それぞれの難しい部分を登るバリエーション。

・イリジウム (5.11b) 2003年11月1日 山本
ハング帯の左端付近を越える。

・ヘビーマタル (5.11a) 2003年12月21日 山本
右岩壁東面と東南面の境界にあたるカンテ状の部分。上部が難しい。

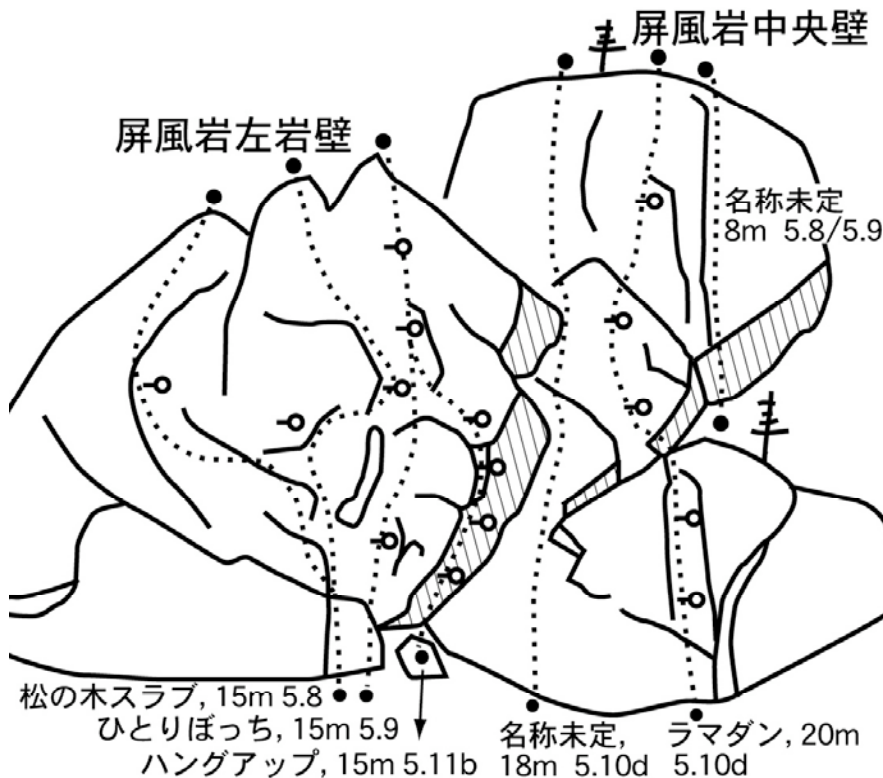
・アルミ (5.9)

東南面の中央部を登る。

屏風岩中央壁

・ラマダン (5.10d) 2001年12月2日 山本

イスラム教の断食月 (ラマダン) に完成した。下部の垂壁 (約5m) を登ってバンドに立つまでが難しい。その上は5.9程度の快適なフェイスが続く。



屏風岩左岩壁

・ハングアップ (5.11b) 2004年11月7日 山本

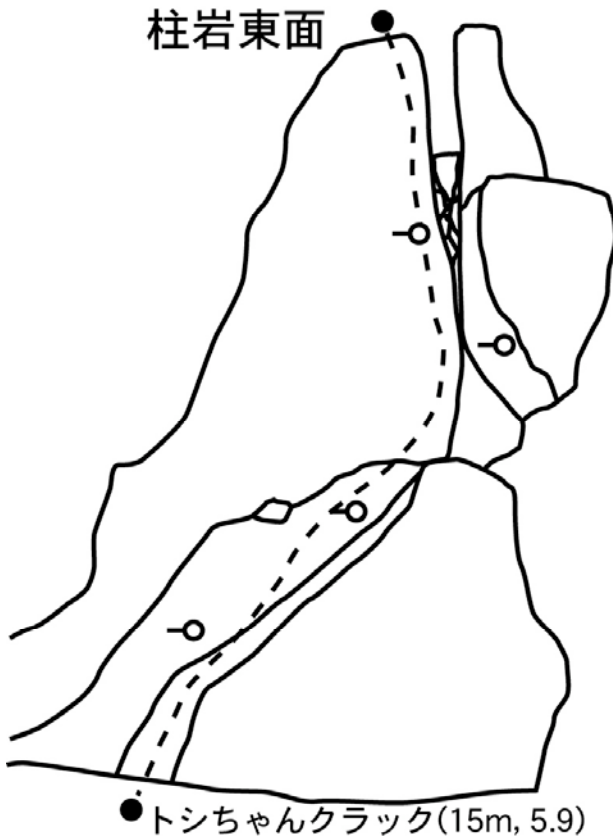
中央壁と左岩壁の間にあるハング帯の下部を左上し、左岩壁のフェイスに抜けてそのまま直上する。左足のトウフックが重要。初登時はハングの基部にある台形の岩に乗って取り付いた。地面から取り付くようにすればもっと難しくなる。

・ひとりぼっち (5.9)

ハングの左より取り付き、ほぼ直上する。

・松の木スラブ (5.8) 一段登ったところからラインが左右に分かれる。どちらも大差なし。

柱岩東面



柱岩

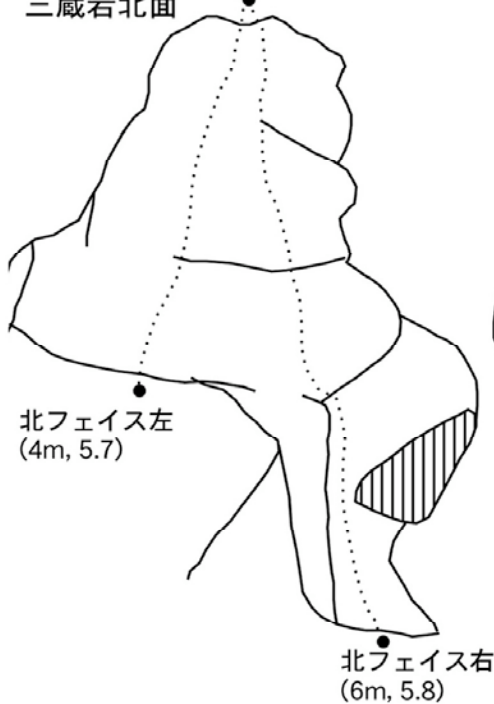
・トシちゃんクラック (5.9)

この岩は柱のように独立していて麓からも見える。下部3分の1は右上するバンドに沿って登り、そこから上はクラックを辿る。クラックは上に行くほど広く、最上部はチムニー状になる。数年以上再登されておらず、クラック内部に草が生えてしまっている。

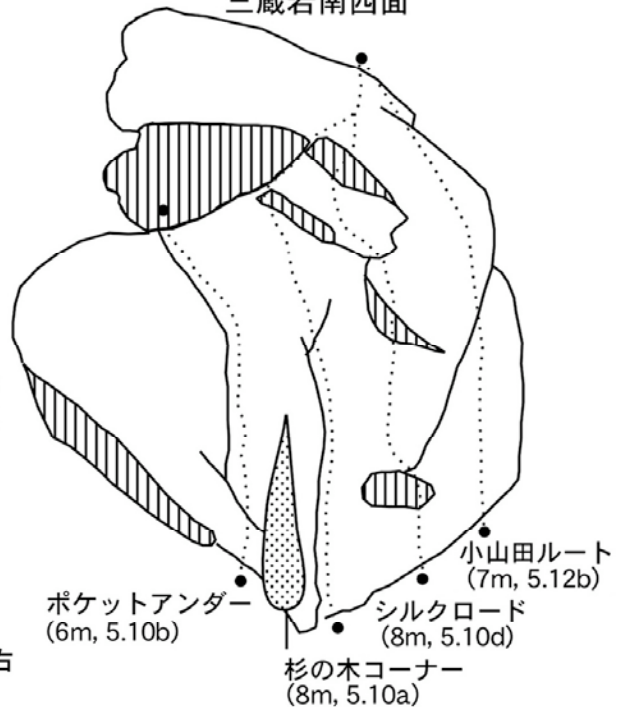
矢杖エリア

金峯山を南麓から眺めたときに、中腹よりやや下部の樹林の中に頭を出している岩が見える。その岩は特徴のない広い尾根上にあつて、近づくと樹林に隠れてしまう。目標が定まらないので、到達するまでに数回試行錯誤した。探索の過程で樹林の中を徘徊したので、目標の岩の他にもいくつかの岩を発見できた。それらの中の一つが6mくらいの大きな張出しを持っていて、後に「矢杖ボルダー」として開拓されることになる。

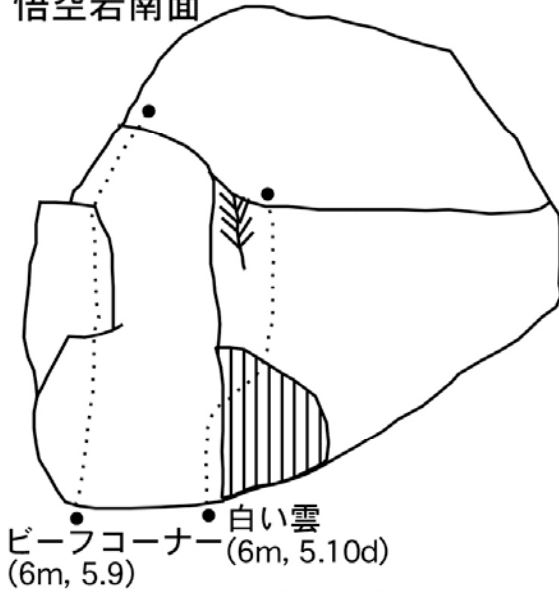
三蔵岩北面



三蔵岩南西面



悟空岩南面



三蔵岩・悟空岩

鹿児島市側からアプローチする場合、県道20号線から矢杖方面に分岐する道に入り、すぐ先にあるT字路で「金峰山登山口」の表示に従って山側の細い道路を進む。観音堂入口に至ると右手に大きな岩が見え、その先に数台分の駐車可能スペースがある。この岩にはボルダー課題がある。観音堂入口を通過すると舗装が切れて砂利道になる。路面は荒れているが普通車でもぎりぎり通行できる。砂利道の終点は少し広がっていて数台の駐車が可能。ここに車を置いて登って来た道を引き返すと、すぐ左手に林業用の道が分岐している。この道は岩へのアプローチと無関係だが間違いやすい。そこから20mくらい先に左に分岐する道があるのでそちらに入る。分岐から150mくらい進んだところで左の斜面にある踏み跡に入る。左前方に矢杖ボルダーが見える。ボルダーの右側を通過し、さらに約100m登ると二つの岩が並び立っている。

高い方を三蔵岩、低い方を悟空岩と名付けた。これらの岩にはトプロープ課題が合計数本設定されている。小山田大氏によるものも一本ある。ただし、最近の数年に三蔵岩と悟空岩を登った人はいないと思われる。これらのルートがどのような状態になっているのかは不明である。

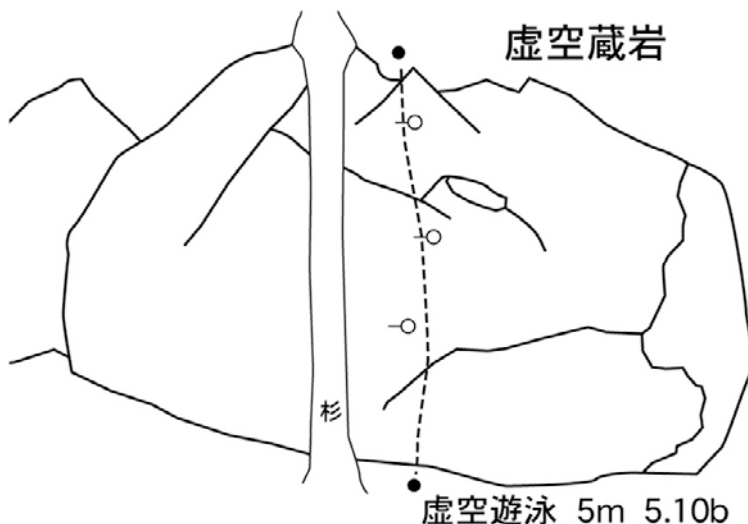
金閣岩・銀閣岩

砂利道の終点から北に伸びる谷の東側斜面に入る。最初は明瞭な踏み跡があるが、奥に行くと間伐された木が放置されていて歩きにくくなる。約200m進んだところの右手の斜面に、二つの岩が谷側にほぼ垂直な面を向けて立っている。高さ約15mのやや逆傾斜したフェイスを持つほうを金閣岩、10mくらいで中間にバンドがあるほうを銀閣岩と名付けた。トプロープによって試登されているが完成したルートはない。金閣岩・銀閣岩の周辺にはボルダーがたくさんあり、「沢エリア」として公開されている。

その他の孤立した岩

虚空蔵岩

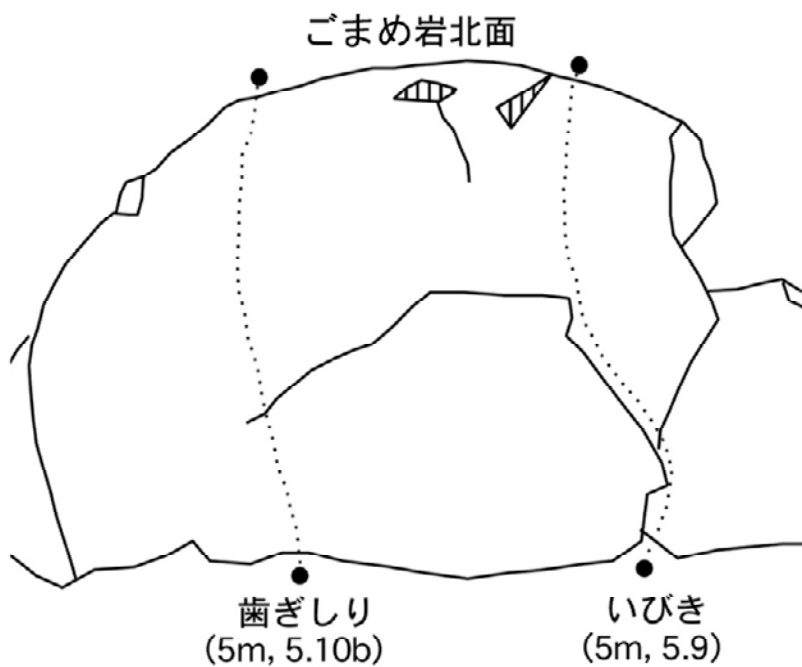
大坂側から舗装路を登っていくと、南西に張出したヘアピンカーブがある。このカーブから約100m手前の山



側の斜面に高さ約6mの岩がある。おそらく初登された後には誰も登っていない。

・虚空遊泳 (5.10a) 1997年10月25日 山本

やや逆傾斜したフェイスを、左右に身体を振りながら登る。これの左側に試登しただけで未完成のラインがある。



ゴマメ岩

屏風岩エリアから山頂方面に約250m進んだところの右手、道路のすぐそばに高さ4mくらいの孤立した岩がある。道路からは見えない北面に高度差が5mくらいのトップロープ課題が2本設定されている。ほとんど登られていないので、藪の中に埋没しつつある。

編集・発行：山本啓司（電子メール：a002_hyam2@mac.com）

本誌は複写自由です。複写物を再配布するときは、全ページを一括して配布してください。本誌の情報はクライミング行為の安全性を保証するものではありません。

スペシャルティコーヒーのカフェ・くらわんか

〒891-0150 鹿児島市坂之上4丁目16-13

Tel&Fax: 099-261-3669

日曜休業 土曜日は月一回営業（クライミングウォールあります）

<http://homepage.mac.com/hyam2/kurawanka/>

